

# 国内外規格・認証制度研究会(第22回)議事録

日時: 2012年1月20日(金) 15:00~17:40

場所: 富士通総研会議室(竹芝)

出席者(敬称略): 有園、加藤(康)、日下、高橋、田代、三島、折笠(記録)[合計7名]

## 【議事要約】

### 1. 最新情報共有(BCAO情報等)(折笠)

#### (1)BCAO運営会議より

- ・研究会・勉強会発表会:4月18日(水)
- ・BCAOアワード表彰式:4月18日(水)
- ・BCAO総会:4月25日(水)PM

#### (2)ISO/TC223状況(ISO,JSAより)

ISOやJSA(日本規格協会)よりのTC223の最新情報の紹介あり。

- ・ISO/FDIS 22301 BCMS 要求事項(2011年12月20日登録):2012年4月頃IS化予定。
- ・ISO/DIS 22313 BCMS 指針(DIS投票中)
- ・ISO 22320 危機管理 - 危機対応に関する要求事項(2011年11月2日IS発行済)

### 2. 研究テーマ発表(2)(担当メンバー)

【研究テーマ】東日本大震災における事業継続行動の経験と教訓の規格への反映

#### (1)ISO/IEC 27031 事業継続のための情報通信技術の準備態勢に関する指針(田代様)

- ・本規格の対訳版が先日、日本規格協会から発行された。
- ・本規格で示されるIRBC(IT-BCPの本規格での略称)の要件に対し、今回の大震災という、大ハザードでの中断において、ギャップは生じていないか。/IRBCに関する要件の理解の観点の違いのみ。
- ・行政と企業で復旧に関する社会的責任は異なるため、上位規定としてレベル付けが必要なのではないか。/自治体等であれば、規格ではなく法律で決めるのではないか。
- ・IRBCに関する具体的な方法論は示されているか。/Annexに一部出ている。ただし、クラウドに関する内容は無い。IT技術に関するより具体的な内容であれば、国内なら日銀とFISCのガイドライン、海外なら米国NIST SP800のガイドラインなどが参考になる。SP800にはクラウドに関する内容も出ている。

#### (2)ISO 22322 危機管理 - 警報(三島様)

規格への反映の検討が望まれる事項として、以下のようなものがある。

- ・モニターハザードに「Tsunami」を追加。本規格を適用するハザードはいつ、誰が判断するのか？
- ・ライフライン寸断、電話輻輳時に使えるチャンネルは限られることへの言及。あるいはそうした場合にもレジリエンスの高いチャンネルを装備しておく必要性を謳う。コミュニケーションチャンネル自身のBCPも必要。
- ・災害時要援護者に対して有効なコミュニケーションチャンネルの具体論がANNEXなどでほしい。
- ・公的機関がソーシャルメディアの公式アカウントを持っておくことに言及。
- ・我が国では特に民間人である消防団の責務と危険が大きすぎるため、生命の危険がある場合には職務放棄もやむを得ないこと、また、それを自分で判断してよいことについて、何らかの上位規定があることが望ましい。

- ・時刻や影響範囲を正確に予測することは難しい。大きめ、過大に伝えることを許容すべし。
- ・今回の震災のように警報自体が不適切な場合もあることと、あくまでも危険回避は自己責任、自己判断で行うべきことも教育啓発に含めるべき。

その他の議論として、以下の内容。

- ・上述の内容にも関連するが、警報の過小、過大に関する対応として、空振りを許容できる受け手側の教育啓発が重要である。
- ・コミュニケーションチャンネルとして、SMS(ショートメッセージサービス)もあるが、日本では馴染みが薄い。使えるのか？【要調査】

### (3)ISO PAS 22399 IPOCM ガイドライン(有菌様)

- ・適用範囲はすべての組織。しかし、主に公共部門が行う災害救助や社会インフラの復旧等、特定の緊急時対応活動は本ガイドラインから除外されている。
- ・本規格を実効性の高い規格にするか否かは、それを運用する企業にかかっている。規格の内容云々より、まずその企業が本規格を活用して事業継続力を高めていく姿勢が重要だと感じる。

### (4)ISO 31000 リスクマネジメント原則・指針(折笠)

- ・BCMのリスクアセスメントはリスクマネジメントプロセスに基づいて、着実に行う。BCMではリスクアセスメントを拡張して考え、結果事象に基づいて行うことが必要。
- ・結果事象といっても一種の「想定」であるので、複合災害など、「想定外」事象は発生する。起こった後のことが想像できる人だけが真の対処ができる。このためには訓練が必要。
- ・クライシスマネジメントのプロセスの理解と特に訓練を重視した能力強化は重要な手段。この分野の規格文書としてBSIのPAS200は有用。BCMとクライシスマネジメントの対応策は統合された補完的な方法で同時に運用できるようにすべきである。

## 3. その他の情報等

- ・大塚様(当日は欠席)より事前に、BCMSユーザーグループ「東日本大震災後の教訓を踏まえたBCM有効性向上への提言」の資料紹介あり。
- ・増田様(当日は欠席)より、災害・事業継続関連のシンポジウム、セミナーの案内資料紹介あり。
- ・三島様より、災害情報関連のシンポジウムの案内資料紹介あり。

## 4. 次回開催予定

- ・2012年3月13日(火)15:00～17:30 富士通総研・会議室にて開催
- ・議題
  - (1)研究テーマ発表(3)
    - ISO 22397 官民連携(増田様)
    - ISO 223XX (検討中)(加藤(康)様)
  - (2)研究会発表会資料案(折笠)、その他

以上